

# 就職活動 心得シリーズ

Product by Oteki's Page

- テストセンターの心得
- ディベートグループワークの心得

Copyright Oteki's Page

# テストセンターの心得

色んな企業が導入しているテストセンター。しかし意外と甘くみたり、気が抜けがち！そこでテストセンターのポイントと対策を載せます。尚、下記は運営者が就活時代に思った個人的見解なので、全てのケースに当てはまる事ではない事はご了承ください。

## 【テストセンターのポイント】

その①: SPIの勉強をしていれば特別勉強する必要は無い。本格的な勉強は1週間前。  
その②: 同じ問題が出る！使い回しができる！を上手く活用する。

## 【テストセンターとは】

各県や都内であれば御茶ノ水、原宿、池袋等、会場に出向いてWebテストを受けるもの。

### ＜基本事項＞

構成: 能力検査、性格検査、英語検査の3つである。(業界によるが英語はあまり使わない)  
使い回し: テストセンターの結果は使い回す事ができる。しかし、前回のものしか使い回せないの、「できた！」と思っても、もう一度受け直して出来映えが悪かったら、その点数を使い回すか、もう一度受け直して良い点数を取るしか無い。

対応: テストセンターは遅刻したり、印刷し忘れても上手く対応してくれるケースが多い。万が一遅刻しても焦らず行こう！

## 【テストセンターを受ける前と後】

### ＜事前の勉強をしっかりと！＞

テストセンターの問題はSPIとほぼ一緒。だからこそ高得点を取るために勉強していくこと！  
テストセンター用のテキストを一つ買っておくと、ほぼ同じような問題が出る！

### ＜即復習！＞

テストセンターでは次回も同じ問題が出る可能性が高いので、試験が終わったら、近くのカフェや家に帰って即復習すること！分からなかった問題はテスト終了後、紙に書いて一回書き出し、忘れないよう覚えておく。(その紙は回収されてしまうが)

### ＜1日に2～3回受ける＞

テストセンターは前回受けたものと同じ問題が平然と出る(しかも結構出る)。運営者の場合、2日で4回受け、同じ問題や似た問題が多く出たため、その二日のみで就活におけるテストセンターは終了。テストセンターの通過率は80%以上だった。テストセンターを1次に持つてくる会社などにエントリーし1日でたくさん受けよう！

## 【まとめ】

テストセンターは用は同じ問題が出る且つ、良い点を取れば使いませるというお得なもの。ただ、ESや選考ラッシュが続く日々の中で、勉強時間を取るのは意外と骨が折れる。なので短期集中で一気にやるのがお勧め。SPIを一通りやって、1週間程度しっかりと対策をすれば良い。

# ディベートとグループワークの心得

こちらも運営者の主観と一般論が交わってます。ただし、基本的には必要な事が書いてあるので、前日に確認してから望みましょう！

## 【ディベート、グループワークのポイント】

その①: まずはグループの盛り上げを行う。盛り上がってないグループは落ちる可能性大。

その②: 自分のポジショニングを作る。まとめ役の発表役がベスト。

## 【ディベートのポイント】

臨機応変さ、柔軟さが見られる。

＜はじまり方＞

- ・始める前に、チームでの考えをまとめる時間を設けよう。(1分程度)
- ・上記が終えた上で、両チーム主張を論じた上でスタート。

＜ポイント＞

- ・相手の意見を肯定してから、自分の意見を言う。  
(いきなり否定はかなり印象悪い)
- ・議論がどのように流れているか、メモをとりながら参加。  
(話の流れを理解し、まとめられるとかなり好印象)  
(確かにそちらの言う〇〇も言えるかもしれませんが。今までの流れからそちらの主張は〇〇と〇〇ですね？ しかし～～～etc...)
- ・話がそれたら、話を戻す。  
(論点がズレている議論は、そのグループのマイナス評価です)
- ・中盤でまとめ作業を。  
(今までの流れからそちらの主張は〇〇と〇〇ですね。なので～～)

## 【グループディスカッションのポイント】

コミュニケーション能力、ロジカルシンキング力、プレゼンテーション力が見られる。

- ・会場入りは15分前。事前にアイスブレイクをして場をなごませておく。
- ・まずは前提条件を確認・設定する。  
(抽象的な題の時こそ、しっかりと前提条件を揃えておく)
- (難しい内容に関しては、「これはこういう事だよね？」と共通理解をとる)
- ・役割の設定  
(タイムキーパーとメモ役を設定。ただし、メモ役になると議論に入りにくくなる可能性あり)
- ・まとめ役に徹する。  
(否定はNGなので、まとめながらアイディアの引き出し役に！ディベートと同じく、途中でまとめ作業をしましょう！)
- ・発表は積極的に  
(まとめ役をすると、「理解している人」になれます。発表は積極的に落ち着いてやればOK)